

中小企業庁の山下隆一前長官と、ヒューレックス㈱（仙台市）の松橋隆広代表取締役社長が対談。デフレからの脱却という転換点において、レビキャリなどを加速させるための施策の方向性、アトツギ甲子園など後継者支援で得られた成果や今後の強化策など、具体的な施策や今後の展望について話を聞いた。

松橋 大企業の豊富な経験・知見を持つ人材を地方の中小企業へつなぐ「レビキャリ」の取り組みが進む中、地方企業自らが「売上100億円」といった高い目標とビジョンを発信していくことは、そうした優秀な人材を獲得する上で非常に重要になってきていますね。

山下 あまり知られていない地方の100億宣言企業が自らを発信することで、数字だけでなく、社長の夢、この会社をどうしていきたいか、そういったことが世界中の人に見える存在になる。これは地方にあっても中小であつても、資金や人材、その他にもあつたはずの非対称性が解消されるという意味を持ちます。

松橋 そうですね。「100億を目指すぞ!」という勢いのある企業が次々と手を挙

げれば、「魅力ある社長と一緒に働きたい」「自分の頑張りを認めてくれる企業に働きたい」という働き手側のニーズにも必ず合致します。

だからこそ、単なるデータによる条件マッチングではなく、企業の経営課題にまで踏み込む「真剣なコンサル型の人材紹介」が今こそ求められていると感じます。大手人材

大企業人材が中小企業で活躍

山下 おっしゃる通り、ここに「人の価値」が出るわけです。レビキャリは、大企業から地方の中堅・中小企業への人の流れの創出・強化を図るため、地域金融機関が民間人材会社とも連携しながら、地域企業それぞれのニーズに応じた人材マッチングを提供する仕組みとなっています。

会社が効率重視のAIマッチングへ舵を切るなかで、私たちヒュー

レックスはどこまでも愚直に、企業の『志』と個人の『熱量』を泥臭くつなぐ『人材流動化を支えるソフトインフラ』であり続けたいと考えています。

4月末時点で、大企業人材の登録者が7007人となり、マッチング成約数は累計398件。中堅・中小企業の人手不足解消とともに、大企業で培われた知見や経験を地域企業へ還流させることで、経営変革を後押しすることが期待されます。

ただ企業側の発信には、売



ヒューレックス㈱
代表取締役社長

松橋 隆広 氏

まつはし・たかひろ 1963年生まれ。青森県出身。86年山一證券㈱入社。2003年ヒューレックス㈱設立、13年マリッジパートナーズ㈱設立、16年事業承継推進機構㈱を設立、それぞれ代表取締役社長に就任。事業承継の総合的な支援を行っている。

上100億を目指すことが「自分のキャリアにどのようなプラスをもたらすのか」「成長できたという実感が得られるのか」「達成感を感じられるのか」といった、若い層が求める情報が見えにくい面があります。だからこそ、成長を目指す地方企業と達成感を

していく必要があると考えています。

松橋 過去の不良債権問題の折には「やむを得ない事情」で優秀な人材が放出され、結果として人材流動化が起こりました。しかし今は全く逆です。「自らの知見を地方で活かしたい」「非連続な成長に挑む経営者と共に達成感を得たい」という前向きな志を持った優秀な人材が、自発的に外へ飛び出しやすい、極めてポジティブなタイミングを迎えています。

この歴史的な人材流動化の波は、地方中小企業にとって「都市部の大企業人材を獲得できる最大のチャンス」に他なりません。このチャンスを地方の旺盛な成長へとつなげるため、私たちは地方中小企業が必要とする『変革のキー

The
地
方
創
生



中小企業庁 前長官 山下 隆一 氏

やました・りゅういち 鹿児島県出身。1989年東京大学法学部卒、通商産業省（現・経済産業省）入省。資源エネルギー庁次長兼首席エネルギー・環境・イノベーション政策統括調整官等を経て、2024年長官に就任、26年8月退官。

継者支援を実施する金融機関や商工団体などの支援機関にも光を当て、後継者支援に向けた機運醸成が進み、地域全体で後

継者の挑戦を後押しする動きも広がっています。2025年度からは、過去のファイナリストや地方大会出場者を「アトツギ甲子園地域アンバサダー」に任命し、地域における後継者候補の掘り起こしを行っています。過去の出場者がアトツギ甲子園を通して成長した経験を地域で発信することで、地域の後継者の挑戦意欲向上につながり、昨年度は過去最多となる225人がエントリーするなど、裾野の広がりも感じています。出場者や審査委員との意見交換を通じて、後継者には実践的に学ぶ機会が限られているという課題も明らかになっています。今後は、現場での実践につながる後継者向けプログラムの検討を進めていきます。

松橋 最後に読者に向けたメッセージをお願いします。

山下 日本は今、デフレから成長経済への移行という歴史的な転換点にあります。100億企業を目指すことは、特別な人だけの挑戦ではありません。誰もがヒーローになれる可能性を持っています。また、100億はまだ難しいという企業に対し、10億円宣言、1億円宣言といった力

マン」となる人材を、これからも責任を持ってつないでまいります。

松橋 次は全国的な課題となっている事業承継問題について伺いたのですが、中小企業庁では「アトツギ甲子園」をはじめさまざまな後継者支援に取り組まれています。これまでの取り組みにより得られた成果と、今後さらに強化していきたいと考えている点について、お聞かせください。

山下 出場者からは「同世代の後継者との交流を通じて刺激を受けた」「新たな挑戦への意欲が高まった」という声も聞こえてきています。協業等の事例も生まれており、後継者同士のネットワークづ

アトツギ甲子園の参加者、過去最多に

くりが進んでいます。アトツギ甲子園出場後、約3割が事業承継を行っています。また、受賞したアトツギ（後継者・候補者）を指導・支援したサポーターに授与されるベストサポーター賞等を通じて、後継者支援を

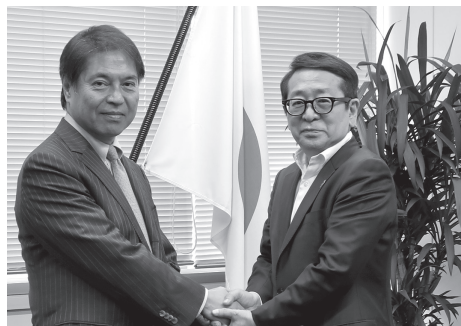
それなりの時間が掛かるため、非連続な成長を実現するには、経営者の若返りを進めていく必要があると考えています。

中小企業庁では2020年度から、39歳以下の後継予定者が自社資源を活用したビジネスアイデアを競うピッチコ

テゴリを設け、それに合った政策の展開を考えています。皆が本気で挑戦する姿は、社員や地域、次の世代に大きな影響を与え、この国の未来を変えていくと信じています。

松橋 その通りですね。売上規模のステージごとに、経営者が直面する課題や悩みは全く異なります。だからこそ、同じ視座を持つ仲間が課題を共有し、先輩たちの成功事例を学びながら「よし、次は自分の順番だ、やってみよう！」と思える良質な循環とネットワークが不可欠です。

日本経済の転換点において、挑戦を始めるすべての経営者の皆さまが孤独になることはありません。私たちは金融機関の皆さまと共に、そのすべての成長ステージに「人」の面から徹底的に寄り添い、共に伴走支援していく覚悟です。本日は本当にありがとうございます。



地方創生から新しい日本の未来をつくる 中小企業庁前長官 山下隆一氏× ヒューレックス(株)代表取締役社長 松橋隆広氏 【後編】

※この対談は5月22日に行われたものです